

平成30年北海道胆振東部地震厚真町慰霊式 式辞

本日ここに、ご遺族の皆様を始め、ご来賓並びに多くの町民の皆様のご臨席のもと、平成30年北海道胆振東部地震厚真町慰霊式を挙げるにあたり、町民を代表して、謹んで追悼の言葉を申し上げます。

かけがえのない多くの命が失われ、本町に甚大な被害をもたらした胆振東部地震から100日が過ぎましたが、最愛のご家族やご親戚、ご友人を失われた方々のお気持ちを思うと、今なお哀惜の念に堪えません。ここに改めて、衷心より哀悼の誠を捧げます。

平成30年9月6日午前3時7分、本町を中心とした胆振東部3町でマグニチュード6.7、震度7の大地震が発生しました。この地震により北海道全域が被災地となり、胆振東部3町以外でも札幌市など多くの地域で甚大な被害が発生しました。地震動による建物被害や宅地の液状化、社会基盤の損壊など資産の被害が広範囲にわたりましたが、震源地である胆振東部3町では4,300名にも及ぶ山腹崩壊が伴い、特に本町ではそのうちの約75%3,200名にも達する地滑りが発生しました。本町の北部山間地に集中していますが、そこには自然と共存してきた人々の暮らしがありました。厚真村の戸長役場は明治30年に設置されていますが、幌内は明治28年に、富里は明治14年に、高丘は明治29年に、吉野は明治24年に、桜丘は明治28年に、朝日は明治27年に、幌里は明治30年に入植・開拓が始まったと伝えられています。

開拓以来、鬱蒼とした原始の森を切り開き、豊かな大地の恵みを糧として、幾多の困難を協働の力で乗り越えてきた地域でもあります。母なる厚真川と豊かな森と海、降り注ぐ太陽の光と月光に照らされた白銀の世界、穏やかな時間の中に抱かれた人々の暮らしと命のリレーがありました。紡いだ地域の歴史と伝統、そして夢と希望、必要なものすべてがここにありました。

9月6日未明、私たちの想像を超えた大規模な地震動は、私たちが頼っていた自然を破壊し、大勢の家族、友人、知人を犠牲にしたのです。先人や各世代が努力して築いてきた資産や社会基盤も大きな損害を被りました。前日までに交わした挨拶やたわいない会話、みんなを虜にした笑顔や輝いていた額の汗が記憶にしまわれます。

地滑りの時間は6秒とも言われ、その速度は時速50キロを超えていたとも専門家は指摘しています。犠牲になられた皆さんは、瞬く間に命を奪われ、伝えたい言葉も残せず、愛する家族を案ずる暇もなく、さぞ無念であったと思います。助けられた方々、ご遺族の皆様にとっても、そのご無念は察するに余りあります。

宮崎キヌエさん、山本辰幸・リツ子・ひろみさん、中村君子・初雄・百合子さん、佐藤正芳さん、松下一彦・陽輔さん、滝本芳子・卓也・舞樺さん、田中博・利子さん、土田健二さん、中川信行・久美子さん、中田朗さん、中田守・靖子さん、中田美江さん、長谷川薫・哲也さん、馬場治雄さん、早坂清・艶子さん、三上とも子・昭人さん、中田一生さん、畑島武司・富子さん、中村ミヨ

さん、三上秀幸さん、林崎清五郎・タケさん、皆さんの肉声を私たちは、もう聞くことは叶いませんが、皆さんの歩んだ足跡や皆様の人生は、遺族や友人と共に残された私たち厚真町民がしっかりと受け継いでまいります。

ここで、改めて発災直後から96時間にわたり、不眠不休の捜索活動を実施していただいた、警察、消防、自衛隊の皆様には、当地での困難を極めた救助活動を展開していただき心から感謝を申し上げます。また、迅速な捜索活動を支援するため啓開作業や後方支援を担っていただいた国、北海道、そして全国のエキスパートの皆様にも、本町での大変なご尽力に厚真町民を代表して厚くお礼を申し上げます。

発災から時が経過する中で、避難されていた方々の仮設住宅への入居が進み、公共土木施設等の応急対策も関係機関のご尽力により順調に進捗しています。農地や宅地堆積土砂の除去、災害廃棄物の処理、水道施設や公共土木施設の本復旧、宅地の耐震化、砂防事業や治山事業による山地復旧、住宅再建や生業の復興など、被災山間地の再生や厚真町の復興には多くの困難が伴います。

11月15日の天皇皇后両陛下の行幸啓において、遺族や被災者へのお見舞いと災害対応従事者へのお労いを賜りました。その際には「大変な状況ですが、力を合わせて、必ず復興してください」とのお言葉も賜りました。私たちは、大自然の脅威に抗う術を持ちませんが、助け合い、地道な努力を積み重ねることで、様々なことを成し遂げてきました。私たちは、太陽のエネルギーを蓄えた自然の恵みにより、生かされています。これからも、北の大地で生きていこうと思います。自然との向き合い方、災害への備えなど、胆振東部地震災害の教訓は、今後の厚真町のまちづくりにしっかりと活かしていかなければなりません。

北海道胆振東部地震は、私たちの慣れ親しんだふるさとの風景を瞬く間に一変させ、尊い命を奪い去りました。被害額は2,000億円とも見積もられる中、復旧・復興は遠く険しい道のりですが、全国各地から駆けつけていただいたボランティアの皆様、物心両面でご支援をいただいた全国の皆様の真心に改めて、町民一丸となって、必ずや復旧・復興を成し遂げ、激励いただいた皆様への恩返しを果たしてまいりたいと思います。

結びに、犠牲となられた36名の御霊が永久に安らかならんことをお祈り申し上げますとともにご遺族の皆様のご平安とご健勝を心から祈念し、式辞いたします。

平成30年12月15日

厚真町長 宮坂 尚市朗